

1 目指す「児童・生徒像」の設定

(玉里学園義務教育学校)

(1) 目指す児童生徒像

(2) 目指す児童生徒像を達成するための取組

たくましい児童生徒

- ①児童生徒の健やかな体づくり
 - ・令和4年度前期45.9%、後期47.5%だった体力テストA+Bの割合を令和5年度は前後期とも50%を目標として体育、保健体育の授業や部活動の練習時にランニングやサーキットトレーニング等を多く実践したり、持久力の向上するメニューを取り入れたりし、体力の向上を目指す。
 - ・体づくりの運動等で体力向上につながる様々な遊びやゲームを取り入れ、楽しく学べる工夫をする。
 - ・低学年においても、体育専科による授業を行い、発達段階に応じて段階的な指導ができるようにする。
 - ・体育的行事をとおして、運動への意欲付けを図る。
- ②運動の日常化
 - ・「スポーツチャレンジ」を活用し、達成感や成就感を味わいながら、スポーツの楽しさや素晴らしさを感じることができるようになるようにする。
 - ・外遊びの励行、縦割り班等による異学年の交流の場を設定し、関わり合いの中で体力の向上を目指す。
- ③ 保護者・外部との連携
 - ・栄養教諭と連携し、「食育」の指導を通して、健康な体づくりへの意識の高揚を図る。
 - ・児童の励みとなるように、体育的行事について家庭・地域への連絡を積極的に行い、多くの方々に参観してもらえようようにする。

まごころあふれる児童生徒

- ①道徳教育の推進
 - ・学年ローテーション道徳の実施及び、相互授業参観や提案授業及び研究協議による研修を行う。
 - ・グループエンカウンターを積極的に取り入れるなど、支持的な集団づくりに努める。
- ②いじめの未然防止・早期発見（好ましい人間関係づくり）
 - ・生活アンケートの毎月実施。アンケート結果を活用した教育相談の実施。SCやSSWとの連携。
 - ・授業や行事、縦割り班活動において異学年交流の機会を多く設定し、思いやりの心を育てるとともに、自己有用感の向上を図る。
- ③9年間を通して系統的に郷土について学ぶ「玉里学」の実施
 - ・総合的な時間に郷土について学ぶ「玉里学」を位置付け、9年間にわたる年間指導計画をもとに、地域に親しみ、地域に貢献する児童生徒を育てていく。
 - ・コミュニティースクールの推進。地域資源や地域人材を活用する。(年間指導計画への明記)

りりしい児童生徒

- ①基礎的・基本的な知識技能の習得
 - ・家庭学習（家庭での授業の復習）の習慣化を図る。〈前期課程は学年+10分、後期課程は学年×15分〉家庭学習の手引きや家庭学習のすすめを家庭に周知し、協力を得る。
 - ・タブレット等のICTを効果的に活用する。
- ②学び合い（玉里スタイル）を通じた主体的に協働して問題解決していく力の育成
 - ・学習課題や導入を工夫する。自分の考えや友達のことを伝え合う場面を設定する。
 - ・1人1台端末を活用して、自分の考えを友達に伝え合いながら取り組ませるような指導を行う。（説明する力、表現する力の育成）
- ③授業力向上を目指した校内研修の実施
 - ・相互授業参観の実施、提案授業及び研究協議の実施により校内研修の充実を図る。